FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルム　神奈川事業場
サステナビリティレポート 2023

概　要

神奈川事業場の概要

	小田原サイト	足柄サイト
所 在 地	〒250-0001 神奈川県小田原市扇町2-12-1	〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210
創　　立	1938年6月15日	1934年1月20日
生産金額	383 億円	750 億円
敷地面積	110 千㎡	326 千㎡
建物面積	45 千㎡	152 千㎡
延床面積	125 千㎡	443 千㎡
従業員数*	928 人	2,142 人
主要製品	・記録メディア データストレージ用磁気テープ ・化学薬品 インクジェットインク ディスプレイ材料用薬品 感光材料用薬品	・ＴＡＣフィルム 液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム ・写真感光材料 一般アマチュア/プロ写真家用　インスタント写真製版用/医療用/事務用/産業用 ・体外診断薬 ・X線直接変換DRパネル ・透明導電性フィルム

＊2023年3月現在 各サイト内にあるグループ会社の従業員数を含む

神奈川事業場マネジメントシステム認証取得年月

	ISO9001	ISO14001	ISO9001 ／ ISO14001 小田原 / 足柄サイト統合
小田原サイト	1992 年 10 月	1996 年 10 月	2006 年 12 月
足柄サイト	1992 年　9 月	1996 年 12 月	

＊統合マネジメントシステム
ISO9001/ISO14001の2つを統合し
運用しているマネジメントシステム

神奈川事業場の環境負荷（2022 年度）

エネルギー・井水

	小田原サイト	足柄サイト
電力-買電	9,442 千kWh/年	67,010 千kWh/年
電力-自家発電	37,739 千kWh/年	93,807 千kWh/年
都市ガス	12,962 千N㎥/年	37,924 千㎥/年
井水・市水	3,661 千㎥/年	9,067 千㎥/年

主要原材料

	小田原サイト	足柄サイト
ベースフィルム	337 t/年	1,636 t/年
銀	155 t/年	39 t/年
鉄	71 t/年	——
ゼラチン	——	227 t/年

原料再生

	小田原サイト	足柄サイト
銀	1.0 t/年	15.0t/年
溶剤	56.2 t/年	——
ベースフィルム	——	100.8 t/年*

＊他工場でリサイクル

大気排出

	小田原サイト	足柄サイト
VOC	4.3 t/年	69.5 t/年
CO_2	31.9 千t/年	110.3 千t/年
SOx	——	——
NOx	14.5 t/年	19.0 t/年
ばいじん	——	0.4 t/年

リユース

	小田原サイト	足柄サイト
プラスチック	2.2 t/年	——

排水量

	小田原サイト	足柄サイト
公共河川	2,209 千㎥/年	6,403 千㎥/年
下水道	205 千㎥/年	1,118 千㎥/年

廃棄物量

	小田原サイト	足柄サイト
リサイクル	999 t/年	2,008 t/年
直接埋立+単純焼却	0.33 t/年	0.0 t/年

製 品

2022　環境活動のTopics

神奈川事業場は数多くの製品を生産している国内最大の生産拠点です。そのため富士フイルムグループの環境方針である「富士フイルムグループグリーン・ポリシー」の重点課題の一つである環境保全に積極的に取り組んでいます。

（1）環境トラブル「０」継続のための取り組み拡充

原材料として多種多様な化学物質を使っているため、大気、土壌、河川へ漏洩するリスクを伴っています。１９９６年に環境マネジメントシステム（ＩＳＯ１４００１）の認証を受けて以降、さらに環境リスク低減活動を強化しています。中でも工場廃水が流れる廃水配管からの漏洩防止に力を入れています。２０２２年度は、ポリ塩化ビニル製配管の老朽化を点検する方法を確立・導入しました。この方法は富士宮事業場を始めとする富士フイルムグループ各社への展開を進めており、事業場間で協働してトラブル未然防止に取り組んでいます。神奈川事業場は様々な角度から環境リスク低減策を推進し、１０年以上に渡って、環境トラブル「０」を継続しています。

（2）環境Good-Job

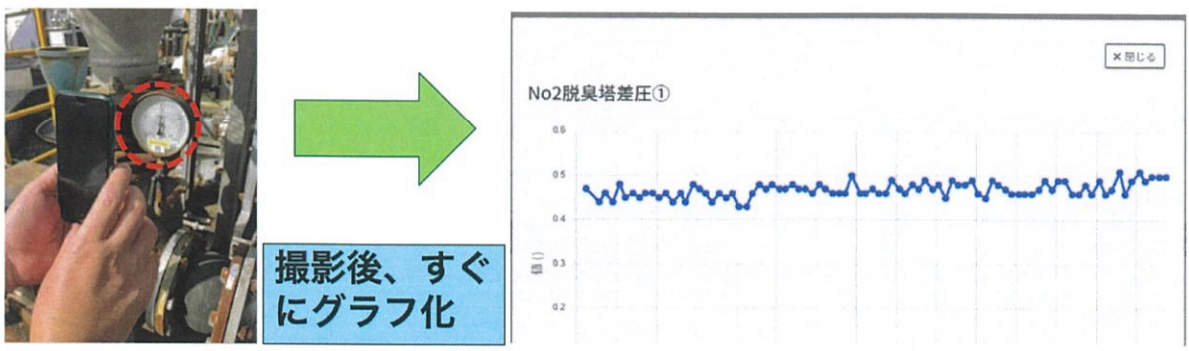
環境異常を早期発見することでトラブル発生を未然に防止したり、環境に関連した職場独自の改善（トラブル予防活動）など、環境保全における良い取り組みは環境Good-Job として事業場全体に紹介しています。２０１５年に始めた当初は環境異常の早期発見のみでしたが、年を追うごとに予防活動が増加し、２０２２年度は予防活動が約４割、総件数が７年前の約１．８倍となるなど、活動が活発化しています。優れた環境活動を共有することで、ひとりひとりの環境感度を向上させ、事業場全体の環境保全に繋げています。

（3）従業員の環境意識向上

環境事故防止のためには、従業員一人ひとりが環境保全に対して高い意識を持って行動することが必要です。そのために、環境について、自らが学び、考え、前向きに行動できるように、全従業員を対象に環境教育を行っています。「座学や見学だけよりも実際に体験したことは身について忘れ難い」。この発想から、２０２２年度には新たな環境教育として体験型教育を導入しました。薬品漏洩時の吸着マットの使い方や土嚢の積み方などを実体験することで、万が一の環境トラブル発生時でも冷静かつ適切な対応が取れることを目標としています。また、富士フイルムグループが持続的に発展していくための根幹をなす計画「Sustainable Value Plan2030（SVP2030）」に基づき、廃棄物に関するWeb 教育を実施しました。廃棄物の有価物化や分別と再資源化など、資源循環を推し進め廃棄物削減に繋がる内容となっています。これらの環境教育により、環境保全への意識、感度向上に努めています。

（4）廃水処理施設における点検のIT化

廃水処理施設は神奈川事業場の環境保全の要となる施設で、多数の設備が２４時間稼働しています。設備が正常に動いているか確認するために、日々数百項目の点検を実施しています。点検漏れやデータの見間違い／記録違いなどのミスは環境トラブルに繋がるため、あってはなりません。そこで、各種メーターの値をスマートフォンのカメラで撮影すると、画像データを数値データに変換してくれるシステムを導入しました。異常データは警告が出るほか、時系列での変動もすぐに見ることができるようになっています。わずかな異常も見逃さないことで、設備を安定稼働させ、廃水トラブルを防止しています。



環境保全活動

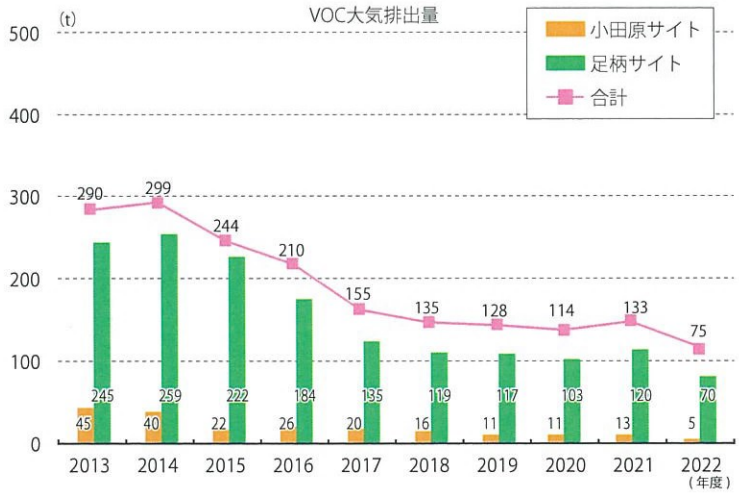
大気（ばい煙・VOC）

		項目	対象設備	単位	県条例排出基準	工場管理値	2020年度	2021年度	2022年度
小田原サイト	総量規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	4.99	4.99	1.5	1.6	1.6
	濃度規制	ばいじん	ガスタービン	mg/Nm³	50	50	1未満	1未満	1未満
		ＮＯｘ（窒素酸化物）		ppm	20	20	11	10	9
		ばいじん	１Ｆ貫流ボイラー	mg/Nm³	300	300	1未満	1未満	1未満
		ＮＯｘ（窒素酸化物）		ppm	60	60	46	45	43
足柄サイト	総量規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	23.48	21.20	2.7	2.6	3.4
	濃度規制	ばいじん	７号ボイラー	mg/Nm³	50	50	1未満	1未満	1未満
		ＮＯｘ（窒素酸化物）		ppm	50	50	28	27	23

総量規制の数値は最高値、濃度規制の数値は平均値です

揮発性有機溶剤（VOC）大気排出量の削減

神奈川事業場ではVOC大気排出量の削減に取り組んでいます。2022年度は前年の生産数量増の反動と、老朽化設備の更新や工程改善などの効果によって排出量が削減されました。



VOC排出濃度規制への対応

小田原サイト11か所、足柄サイト８か所の排出口での濃度測定を行い、規制値以下であることを確認しました。

廃棄物の管理

神奈川事業場ではゼロエミッション活動*を推進しております。2018年１月に中国で廃プラスチック輸入禁止、2019年５月にはリサイクルに適さない廃棄物の国際的な輸出入規制、さらには廃棄物の削減や再資源化に対する社会的な要請も強くなっており、廃棄物処理を取り巻く環境は、ますます厳しくなっています。2022年度はこのような環境下で、足柄サイトでは機能性フイルム製造時に発生する廃液の事業場内の廃水処理設備による処理及び、ベース屑発生量の削減と有価物化の施策により、廃棄物排出量を前年度比約12%削減できました。また小田原サイトでは、ベース及び不要品の廃棄を進めたため約23%の廃棄物排出量が一時的に増加となり、これらの結果、事業場全体の廃棄物排出量は3%削減に留まりました。今後も廃棄物排出量削減に向け、ベース屑、廃プラスチック等の再資源化を推進し、また生産方法の効率化、安定化を進め、３Ｒ（Reduce/Reuse/Recycle）の視点で廃棄物の削減を推進していきます。

＊ゼロエミッション活動とは、事業活動で発生する廃棄物を再資源化し、廃棄物の単純焼却、単純埋立をゼロにすること。

水質

河川放流系

主な項目		法規制値	小田原サイト 県条例値	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2021 年度	小田原サイト 2022 年度	足柄サイト 県条例値	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2021 年度	足柄サイト 2022 年度
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8 ～ 8.6	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	7.0	7.8	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	8.1	8.0
生物化学的酸素要求量 (BOD *1)	mg/L	160	60	50	1	1 未満	25	20	1 未満	1 未満
化学的酸素要求量 (COD *2)	mg/L	160	60	50	1	1 未満	25	20	1.0	1.0
浮遊物質量 (SS)	mg/L	200	90	75	1 未満	1	70	50	1 未満	1 未満
大腸菌群数	個 /cm3	3000	3000	300	10 以下	10 以下	3000	300	10	23
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	mg/L	5	5	4	1 未満	1 未満	5	5	1 未満	1 未満
銅含有量	mg/L	3	3	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.3	0.05 未満	0.05 未満
亜鉛含有量	mg/L	2	2	1	0.02 未満	0.1	1	0.3	0.05 未満	0.05 未満
溶解性鉄含有量	mg/L	10	10	5	0.05 未満	0.05 未満	1	0.5	0.2 未満	0.2 未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	1	0.5	0.02 未満	0.02 未満	1	0.5	0.05 未満	0.05 未満
クロム含有量	mg/L	2	2	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.2	0.1	0.002 未満	0.002 未満	0.2	0.16	0.002 未満	0.002 未満
シアン	mg/L	1	1	0.8	0.05 未満	0.05 未満	0.5	0.3	0.1 未満	0.1 未満
フェノール類	mg/L	5	0.5	0.2	0.05 未満	0.05 未満	0.05	0.03	0.01 未満	0.01 未満
ふっ素	mg/L	8	8	6	0.1	0.1 未満	8	6	0.5 未満	0.5 未満
カドミウム	mg/L	0.03	0.03	0.02	0.003 未満	0.003 未満	0.03	0.02	0.003 未満	0.003 未満
鉛	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.05 未満	0.05 未満	0.1	0.06	0.01 未満	0.01 未満
セレン	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.005 未満	0.005 未満	0.1	0.08	0.01 未満	0.01 未満

＊1 BOD とは　水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が微生物によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。
＊2 COD とは　水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。

測定値は毎年度 10 月度における数値を示しました

地下水水質

事業場内外に小田原サイトでは9ヶ所、足柄サイトでは8 ヶ所、観測井を設置し定期的にモニタリングしています。

主な項目 (単位：mg/L)	法定浄化基準および県条例基準	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2021 年度 (測定 9 箇所)	小田原サイト 2022 年度 (測定 9 箇所)	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2021 年度 (測定 8 箇所)	足柄サイト 2022 年度 (測定 8 箇所)
カドミウム	0.003	0.003	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003	0.0005 満	0.0005 未満
全シアン	検出されないこと	検出されないこと (検出限界 0.005)	検出限界以下 (検出限界 0.005)	検出限界以下 (検出限界 0.005)	検出されないこと (検出限界 : 0.1)	検出限界以下 (検出限界 : 0.1)	検出限界以下 (検出限界 : 0.1)
鉛	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.01	0.005 未満	0.001
六価クロム	0.05	0.05	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.01 未満	0.005 未満
砒素	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.01	0.005 未満	0.001 未満
総水銀	0.0005	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)	検出されないこと (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)
PCB	検出されないこと	検出されないこと (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)	検出されないこと (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)	検出限界以下 (検出限界 : 0.0005)
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.0005 未満	0.0005 未満	0.015	0.0005 未満	0.0005 未満
四塩化炭素	0.002	0.002	0.0005 未満	0.0005 未満	0.002	0.0005 未満	0.0005 未満
1,1,1,- トリクロロエタン	1	1	0.0005 未満	0.0005 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.0005 未満	0.0005 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.0005 未満	0.0005 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
ベンゼン	0.01	0.01	0.0005 未満	0.0005 未満	0.01	0.0005 未満	0.0005 未満
セレン	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.01	0.005 未満	0.001 未満
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	10.0	10.0	1.1	1.3	10.0	1.1	1.0
ふっ素	0.8	0.8	0.08	0.10	0.8	0.2 未満	0.08 未満
ほう酸	1	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.05 未満	0.05 未満

＊「〇〇未満」とは検出限界未満を表します。

PRTR 集計結果

単位：t / 年

PRTR 対象物質・自主管理化学物質データ（2022 年度）

	対象物質名	政令指定番号	排出量 大気	排出量 前年との差異	排出量 水域	排出量 土壌	移動量
小田原サイト	銀及びその水溶性化合物	82	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	コバルト及びその化合物	132	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ジクロロメタン	186	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	トリエチルアミン	277	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
	トルエン	300	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
	りん酸トリフェニル	461	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
足柄サイト	アセトニトリル	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	エチレンジアミン四酢酸	60	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	クロロホルム	127	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ジクロロメタン	186	17.0	-13.2	0.0	0.0	24.0
	セレン及びその化合物	242	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	トルエン	300	0.2	0.0	0.0	0.0	1.9
	ヒドロキノン	336	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	n- ヘキサン	392	0.2	-0.1	0.0	0.0	1.0
	りん酸トリトリル	460	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	りん酸トリフェニル	461	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

＊PRTR とは　環境汚染物質排出移動登録（Pollutant Release and Transfer Register）の略で、化学物質を製造・使用する事業者が自主的に環境への排出量を把握・管理する仕組みのことです。

省エネルギー・CO_2排出量の削減

神奈川事業場は、2013年度よりエネルギー戦略推進委員会を発足させ、事業場をあげて省エネ活動を積極的に行っています。 2018年度より取り組んでいるエネルギー供給側と需要側の部門横断で取り組む省エネ活動は、より活性化させて継続しております。2020年度に実施した小田原サイト中央冷水設備の高効率化は、2022年度に足柄サイトにも水平展開で導入しましたが、ノンフロンタイプ冷媒の冷凍機を初めて導入するなど、省エネによるCO2削減だけでなく温室効果ガス削減も実施しています。

2022年度はCO2削減を重視する取り組みを行い、省エネによる削減に追加して、CO2換算係数の少ない燃料選択など、多様なCO2の削減施策を推進しました。

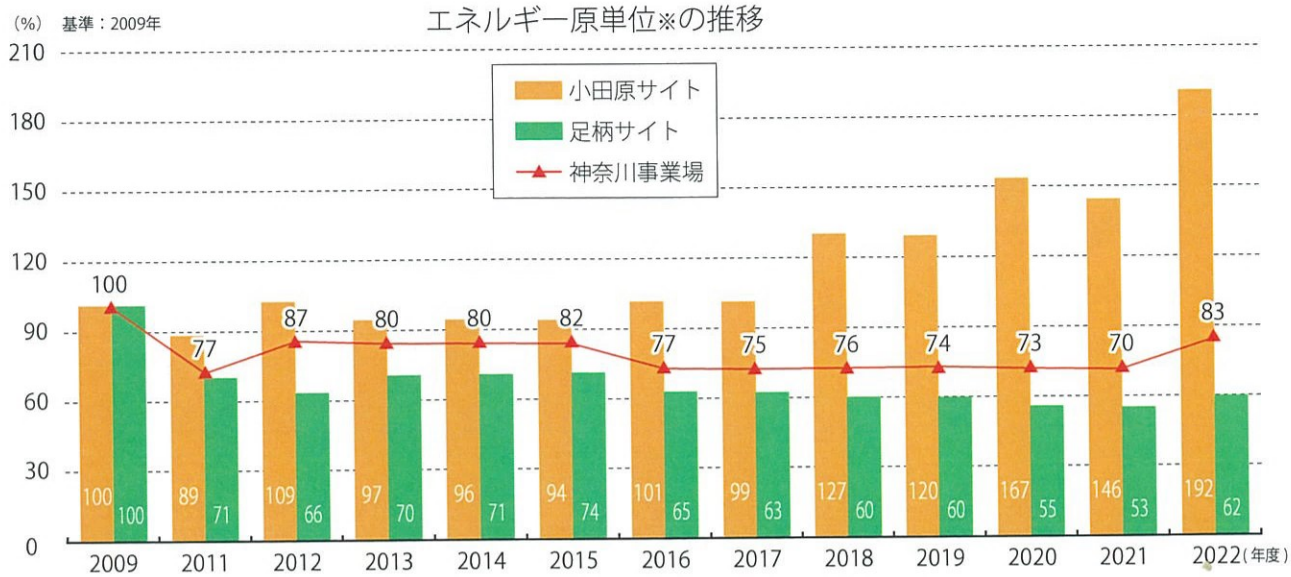
また、政府が推進している電力のデマンドレスポンス（電力供給逼迫時に電力会社の要請に応じて購入電力を抑制する取り組み）にもひきつづき参加しており、電力安定供給に貢献していきます。

CO_2 排出量の削減

神奈川事業場は2009年比　約37%　低減を達成しました。

エネルギー原単位の改善

神奈川事業場は2009年比　約17%　低減を達成しました。



※エネルギー原単位…製品㎡当たりのエネルギー使用量で
2016年度に資源エネルギー庁に届けるエネルギー原単位の計算方法を改定した。

地域とのコミュニケーション

従業員の積極的なボランティア活動参加などによる地域との共生、社会への貢献を大切にしています。

清掃活動への参加

「クリーンさかわ」への参加（5月） ※2022年度は中止。

小田原市自治会連合主催による美化運動に、市民や様々なボランティア団体の方々と一緒に参加し、酒匂川流域の清掃作業を行っています。

「山王川・久野川」の清掃（6月） ※2022年度は中止。

小田原市および山王川・久野川流域自治会主権による河川の清掃作業を自治会の方々と一緒に行っています。

「春木径・幸せ径」の草刈(6月・8月)

春木径奉仕会主催による両岸土手の草刈を、近隣住民の方々・様々なボランティア団体のみなさんと一緒に行っています。

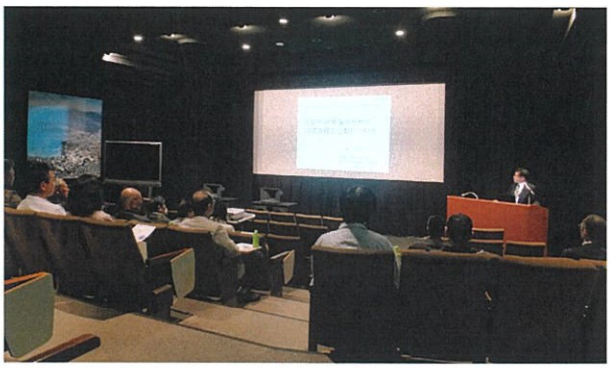
従業員による地域とのかかわり

「環境フェア」への参加（6月）

南足柄市役所で開催される環境フェアに参加し、事業場の環境活動について、見学に訪れる小学生にもわかりやすく説明しています。

自治会環境説明会(11月) ※2022年度は中止。

神奈川事業場周辺の自治会の皆様へ、事業場の環境への取り組みを説明し、意見交換を行っています。



「小田原市出初式」への参加（1月）

新春恒例小田原市消防出初式に参加しています。

※一部新型コロナウィルスの影響でイベントが実施されず過去の写真を使用しているものがあります

◆対象組織◆

富士フイルム神奈川事業場　および、
当事業場敷地内のすべての関連組織、グループ会社が対象

マテリアル生産本部　神奈川事業場
記録メディア開発センター
安全性評価センター
イメージングソリューション開発センター
解析技術センター
高機能材料研究所
精密プロセス技術センター
ディスプレイ材料研究所
有機合成化学研究所

主なグループ会社
富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社
富士フイルムエンジニアリング株式会社
富士フイルムビジネスエキスパート株式会社
富士フイルムヘルスケアマニュファクチャリング株式会社
富士フイルム和光純薬株式会社

FUJIFILM
Value from Innovation
富士フイルム株式会社

神奈川事業場
小田原サイト
〒250-0001　神奈川県小田原市扇町 2-12-1

足柄サイト
〒250-0193　神奈川県南足柄市中沼 210

■編集目的

本レポートは富士フイルム株式会社神奈川事業場と当事業場敷地内にある関連組織およびグループ会社の環境活動および地域コミュニケーションについての活動と2022年度における実績を中心に掲載しました。私たちの取り組みを読者の皆様にご理解いただくとともに取り組みの更なる向上を目指し、読者の方々とのコミュニケーションを図ることを目的に毎年発行しています。

■環境データ対象期間

2022年度（2022年4月～2023年3月）

本レポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願い致します。
富士フイルム株式会社　マテリアル生産本部　総務ユニット
事業場管理グループ　環境安全グループ　神奈川事業場
TEL：0465（73）6080
FAX：0465（73）6909

発行　2023年7月　　次回発行予定　2024年7月